

第1回大分県観光振興財源検討会議 委員意見

日時：令和7年5月28日14時～15時30分

場所：県庁舎本館7階 71会議室

項目	No	発言要旨
(1) 大分県の観光の現状について (2) 大分県の観光施策の方向性について	1	・観光財源考える場合、3つのキーワードで考える必要がある。 ・「事業」どういう事業をするのか。新たに観光施策としてどういうことをするか。それが県民にとっていいものか。 ・「財源」どういう財源をあてて推進していくか。その事業を進めるにはいくらの金額が必要か。 ・「負担」誰がどういう風に負担するか。どういう仕組みでとっていくか。 ・この3つを行ったり来たりしながら議論を進めたい。
	2	・大分県は素晴らしい素材がいっぱいある。横のつながりが強くなっていくともっといい。 ・体験観光の充実や二次交通の課題解決など、観光振興のための環境づくりを担うDMO組織が肝になってくる。いい人材を確保するため、働きたいと思えるような組織づくりが重要。
	3	・資料P25で挙げられている課題・取組はすべて重要。 ・観光を本気で地域の基幹産業にしていく時がやってきた。産業として雇用を産むためには「需要の平準化」が重要。インバウンドと国内客の両面で、一年中儲かる仕組みが必要。人為的にそういう風にしていく努力が必要。 ・観光は地震、国際関係の悪化、コロナ等、偶発的なリスクにさらされる脆弱性をもっている。「観光危機管理体制」は重要。 ・「県内周遊」も重要。遠くから来るお客さんは、広くまわる。 ・韓国等、近くからお客が沢山来るのは当たり前。これからは、人為的に遠くからのお客を呼んでいける“第二フェーズ”に登っていかないとけない。 ・それらを図るために、やはりDMOの力が重要。
	4	・観光行政に長く携わる中で観光振興財源の重要性は痛感。観光に独自の財源はなく、人材や予算等、その時々の方針や政策的判断で変わっていく。 ・ツーリズムおおいたのようなDMO組織を作っても、独自の財源がないため、人件費すら払えない状況。
	5	・人がすべて。難しいテーマであり、事務局となる県庁も頑張って貰いたい。 ・長湯では財源確保のために九州アルプスが見えるケーブルカーをつくろうという話をしている。 ・別府・湯布院・九重、インバウンドに関してたくさんのお客さんを呼んでいる。長湯温泉も、温泉の質はいいがお客さんをうまく呼べなかったこともある。そういった経験から会議で発言できれば。

項目	No	発言要旨
(1) 大分県の 観光の現 状につい て (2) 大分県の 観光施策 の方向性 について	6	・日田では、近年、熊本からのお客、バスが増えてきている。豆田町を中心にインバウンドが増えており、韓国からがほとんど。国際問題や豪雨災害など、何かの問題が起きた時にお客がぐっと減るのではと懸念。 ・台湾からのお客等、九州広域で動いており、他の地域と違う点（屋形船での食事など）を打ち出していくのが大事と思っている。
	7	・県税の実務経験者として参加。 ・実家（母）が、鉄輪で貸し間をしている。入湯税の特別徴収義務者になって大変そうだった。そういった意見も会議で伝えられれば。
	8	・全国各地で「大分県はいいタイミングで検討会議を立ち上げた。」と言われる。 ・20年前にツーリズムおおいたを作り、昨年度のツーリズム戦略、有識者会議等での検討を経て、「住んでよし、訪れてよし」のありたい姿に向け、財源含めて議論できるのはありがたい。 ・由布院の課題であるオーバーツーリズム。簡易宿所の課題は由布院だけで考えることではない。 ・ツーリズム戦略やP25の課題に対して、しっかりやるようにするためには、今のツーリズムおおいたの体制では難しいと感じており、この会議を通じて前に進められればと期待。
	9	・資料P25の課題について、どれも大事だが、宿泊税をとるにしても優先順位を決めてやっていくのが大事。 ・地域によっても異なるので、県が受け持つ部分、市町村が受け持つ部分。重複や無駄がないようにするのがいいのでは。 ・オーバーツーリズム問題等あるが、来たお客さんが「大分っていいよね」と満足してもらえるような施策・財源を考えていきたい。
	10	・今までの観光の財源を減らさず、新たに財源を確保して、トータルとして観光につかえる財源を増やし、大分の力を強くするのが重要。 ・財源にも限界があり、優先順位が大事。 ・データが重要。京都市では、地道に観光統計をとっており、データが緻密に積み上げられている。 ・最初は、「人」、「組織」、「データ」が大事。事業効果がわかって、PDCAが回せるような事業をいれていただきたい。 ・新しい財源は、観光客のために使われるものであってほしい。観光客が満足し、消費が伸び、事業者も効果を感じる、好循環につなげていく。

項目	No	発言要旨
追加発言	3	・委員が同じ方向を向いていると感じた。大分への愛がしっかりある。 ・資料P25で挙げられているテーマ+「需要の平準化」。優先順位をしっかりとつけていくというのは大事。 ・やらないという選択肢はない。どこからやるか。体制のレベルを上げて、ここをやる等、ステップ論で考えていって、どのくらいの財源が必要なのかを考えるのがいいかと思う。 ・今、県がもっている観光行政財源。減らすことはなく、足りないと思う。 ・新しい財源の検討がとても大事。宿泊税も選択肢に入るが、まず全国各地で先行した導入事例が多く、徴収の仕方が明確な宿泊税から考えていってはどうか。
まとめ	1	・観光振興財源が必要という方向は確認できた。 ・P25の施策の優先順位づけは重要である。加えて「どれができるのか。」も大事。施策を行うためには、どの程度の費用が必要か、金額を具体化してもらいたい。 ・また、これまで観光政策として投入してきた財源がいくらなのか。今後、新しい施策をしていくために新たにこういうのが必要ということを「ビフォーアフター」で示してもらいたい。